



---

## NEWS RELEASE

2004年10月1日

### 在日カナダ商工会議所が日加社会保障協定の早期締結に向け努力

在日カナダ商工会議所(CCCJ)が予めから提案していた日加社会保障協定が、このほど締結に向けて日加交渉を開始することを厚生労働省が発表しました。CCCJは、協定締結に向けて前進したことを歓迎しています。合意が成立すれば、日本あるいはカナダにおいて就労しても、両国双方への年金払込みを強いられることはなくなります。

第一回交渉は10月4日から7日にかけてオタワで開催されます。交渉には厚生労働省および外務省から、またカナダ政府からも担当官が出席します。日本は既にドイツ及びイギリスと同様の協定を結んでおり、米国及び韓国との協定も施行されようとしています。

CCCJメンバーでありカナダアクチュアリー会(保険数理士会)会員でもあるレスリー・ローマン氏は、「この協定は不可欠なものであり、成立すれば両国間の人材の往来がますます進むことでしょう。可能な限り速やかに締結してもらいたい」と話しています。

CCCJ会頭のジョン・デイビスは「日加両国間の事業効率を高めるためにも、社会保障協定は最も重要なステップのひとつ。当会議所は、1992年から年金問題に真剣に取り組んできており、今回の発表は喜ばしい限りです」と述べています。

カナダ企業の対日直接投資は近年大幅に伸びています(90億カナダドル)。二国間社会保障協定の締結は、既に日本に進出している企業のみならず、カナダからの対日投資の更なる促進に寄与するに違いありません。

さらに協定締結によって、カナダに進出している日本企業も経費削減が可能になります。カナダの投資先としての条件が向上すれば、日本企業の対加投資もさらに発展することでしょう。

CCCJは東京および大阪を拠点に、29年間に渡って在日カナダ実業界を支援し、日加間の通商の発展に努めてきました。日本、カナダおよび他国のビジネスマン、起業家、政府関係者、教育者など、115社/団体、280名で構成され活動を続けています。

---

詳細は、在日カナダ商工会議所までお問合せ下さい。